

4.5 水象

4.5.1 調査の方法

水象に係る調査項目は、①地下水の水位の状況、②降水量等の状況、③その他の予測・評価に必要な事項（地下水の水位、流向等に影響を及ぼす地層・地質の状況、水利用及び水域利用の状況）とする。

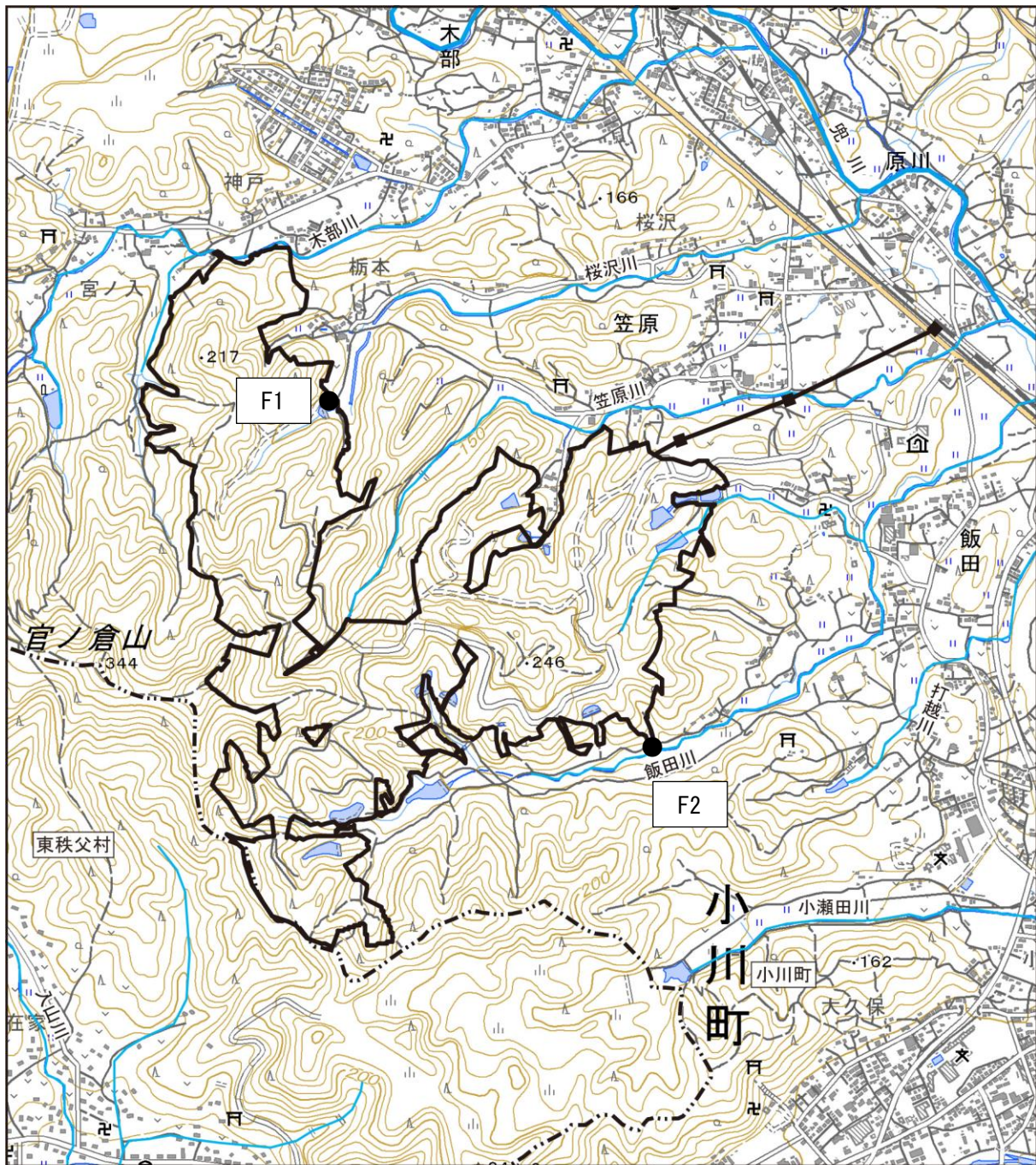
水象に係る調査の方法は表4.5-1に、現地調査地点の選定理由は表4.5-2に示すとおりである。現地調査地点は図4.5-1に示すとおりである。

表 4.5-1 調査の方法（水象）

調査項目	調査方法		調査地域・調査地点	調査期間・頻度
①地下水の状況 ・地下水位	現地調査	ボーリング調査及び観測井戸での水位計による測定方法	計画区域内の2地点とする。	1年間とする。
②降水量等の状況	既存資料調査	「過去の気象データ検索」（気象庁HP）等の整理及び解析を行う。	寄居地域気象観測所とする。	最新資料を含む過去5年とする。
③その他の予測・評価に必要な事項 ・地下水の水位、流向等に影響を及ぼす地層・地質の状況	既存資料調査	「地形図」、現地踏査、ボーリング調査等の整理及び解析を行う。	計画区域周辺とする。	最新の資料とする。
③その他の予測・評価に必要な事項 ・水利用及び水域利用の状況	既存資料調査	「土地利用現況図」（埼玉県）、「住宅地図」等の整理及び解析を行う。	計画区域周辺とする。	最新の資料とする。

表 4.5-2 水象等の現地調査地点の選定理由

調査項目	地点名		選定理由等
地下水の水位及び水脈	地点 F1	計画区域北側	計画区域内の北側および南側の土地利用の改変による地下水位への影響を把握するため計画区域内2地点を選定した。
	地点 F2	計画区域南側	



凡 例

- 計画区域及び関連施設
- 町村界
- 河川
- 調査地点（水象：地下水位）



1:15,000
0 100 200 300 400 500 m

図 4.5-1

水象調査地点（現地調査）

4.5.2 予測・評価の方法

水象に係る予測、評価の方法は表4.5-3に、環境の保全に関する配慮方針は表4.5-4に示すとおりである。

表 4.5-3 予測・評価の方法（存在・供用：水象）

予測事項	造成等の工事に伴う水象への影響 (造成等の工事による地下水位及び水脈の変化の程度)
予測方法	事業計画（土地改変計画等）をもとに、計画区域の地下水位と掘削深度の比較等により影響が生じる可能性を定性的に予測する
予測地域・地点	予測地域は計画区域及びその周辺とし、予測地点は調査地点に準じる。
予測対象時期	造成工事等による地下水への影響が最大となる時期とする。
評価方法	< 影響の回避・低減の観点 > 地下水への影響が事業者等により実行可能な範囲内でできる限り回避され、又は低減されているかどうかを評価する。

表 4.5-4 環境の保全に関する配慮方針（水象）

区分	環境の保全に関する配慮方針
造成等の工事に伴う水象への影響	・造成を行うに当たっては、掘削深度を最小限とする。